

## “現代生物学ゼミナール”について

「生物物理」という雑誌を書店で見かけるようになりました。近頃は何か判ったような判らぬような新造語(?)が、生物学の中にもふえて来て、めまぐるしいほどです。曰く分子生物学、曰く空間生物学、曰く人間工学etc.……、新造語の多いだけならいざれ流行でもあり消えて行くものも多いものですから、タカをくくっていいのですが、生物学の方面ではどうも流行(?)だけでなく、生物学そのものが超スピードで進んでいるようです。毎日々々、生徒相手の神経の疲れる仕事にたずさわっている私達教師には、新しい生物学の動向というものをも身につけるいとまがありません。しかし、少くとも科学について関心をもつ私達としては、現代の科学の真理を正しく把握することは、当然の事かも知れませんがなかなかそこまで行かないのが現状です。少しでも正しい把握をして、正しい科学的概念を生徒に伝え思考させるのが、私共理科担当者の責務だと思いますが、このようなことを考えれば考えるほど、生物学の進歩が更に加速度を加えて、我々の手の届かない遠い所へ行ってしまうように感じられてなりません。

このような時に、科学者達の声を聞こうではないかという声があちらこちらで起り、神戸支部を中心として、そのような趣旨の会を持つ段取りが進められ、ともかく表記のようなゼミナールが発足しました。事情さえ許せば毎月でも、また県下のあちらこちらで開きたいのですが、何しろ忙しい授業の片手間の仕事でもあり、発足したばかりですので赤字続きで、今の所 奇数月の第1土曜日を例会日とし、神戸市内のどこかで会場を持つことにしています。神戸より遠い方々には出席して戴く機会が少なくて申訳ありませんが、御都合のよろしい時はどうか是非おいで下さい。ちなみに今までの例会の様子とこれからの予定を書きますが、皆でこのゼミナールをのり多いものにして行くために、講師についての御希望講師の紹介、ゼミナールの運営の仕方等、何でも結構ですから現在の世話係——県立長田高等学校生物教室までお知らせ下さい。世話係も会が円滑に動き出しましたら持ち廻りとか、当番制とかで交代をして、どんどん新しい運営をして行った方がよいと思っています。

### 例会の記録と予定

第1回昭和36年12月9日 長田高校

「最近の人類遺伝学」神戸大学川辺昌太先生

出席者 36名

ヒトの染色体数が46と確定するまでの染色体研究史に始まり、最近の遺伝生化学の成果等について2、3——鎌状赤血球貧血に関連して遺伝子が形質発現に到る生化学的機構の説明などあり、約3時間

第2回 昭和37年1月6日 長田高校

「コウノトリについて」県立長田高校長

岩佐修理先生

「朝鮮のコウノトリについて」武庫川大学

参加者 30名 森為三先生

正月に因み松上の鶴と呼ばれるコウノトリをめぐって岩佐先生には豊岡地方で長年その保護育成に努められた時の生態的観察の報告および保護対策についての知見などを、また森先生からは、朝鮮のコウノトリの概況と特に朝鮮の人達のコウノトリ或は野鳥に対する愛情あふるる保護方法などをお聞きしました。なおこの際の例会で神戸大学広瀬・藤原両先生、兵庫農大奥谷先生に来て戴き、興味ある色々の話題を提供して戴き、ゼミナールの持ち方などについての討論も加えた。懇談会を含めて約5時間。

第3回 昭和37年3月3日 市立湊川高校

「生体の神経調節の機構」神戸医大

参加者 40名 須田勇先生

生体の恒常性維持という命題をもとに、血圧の問題・筋の緊張の問題等について、実験のデータを参照に神経による調節機構の実際をお聞きしました。私にはやや難解な点も少なくなかったけれども、物の新しいとらえ方生物学の思考形態の前進をたたきつけられた感じでした。又悉無律とか反射弓についての私共の概念がいかに良い加減であったかを知ることが出来ました。活発に質疑が出て教育の現場の問題等も、もっと動物生理学的に話し合う必要を感じながら、時間の関係もあり討論半ばで打ち切りました。約3時間

第4回 昭和37年6月9日 市立教育研究所

「藻類に関する諸学の最近の進歩」神戸大学

広瀬弘幸先生

「藻類学総説」の著者である広瀬先生に、藻類についての学問が、又植物の系統分類学がどのあたりまで進んだかについてお話しして戴きました。参加者25名

それ以後の予定としては前回実現出来なかった京都大学河合先生の“サルのお話”をいつか是非して戴こうと思っ  
ていますが、その他生物学を主とした科学史、生理学  
進化学、大脳生理等についてセミナーをもちたいと思

っていますが如何でしょうか。動物発生学方面で適当な  
講師の方を御紹介下さい。以上思いつくままに“現代生  
物学セミナー”の御案内をしました。

(県立長田高等学校 安房 明記)

第5回 昭和37年7月7日 兵庫高校

### 「デンプンの光合成について」

大阪大学 二国二郎先生

この会は県教育委員会と共催で行ないました。

非常に多数来られたため会場を教室から講堂に移した  
ほどでした。そのためいろいろと不手際がありまして御  
迷惑をおかけした事をここで詫びます。

なお、この日、午後から懇談会を持ち、生化学方面の  
教材の取り扱いについて活潑な意見が交換されました。

午前10時より午後3時まで 120名

第6回 昭和37年9月29日 高田高校

### 「細胞生化学の進歩」

神戸大学 深沢広祐先生

1962年のノーベル賞(医学生理学)受賞者ワトソユ・  
クリック・ウイレーキンス等の仕事についての内容紹介  
等が入って、最新のこの方面の知識をやさしく紹介して  
戴いた。(ノーベル賞の発表は、これより後日であった)  
約3時間 20名

第7回 昭和37年11月10日 長田高校

### 「ミツバチの科学」

神戸大学 小森誠一先生

ミツバチのいろいろの方面にわたって興味あるお話  
をうかがった。この会には、宮川小学校の樋上先生が蜂や  
巣箱等実物を提供され、また、同先生の御好意により参  
加者に1瓶ずつほんとうの蜂蜜をわけて戴いた。厚く御  
礼申し上げます。 35名

予定 38年1月 長田高校講堂

#### —これからの生物教材の取り扱い—

- 「生物スライドの作り方」神戸大学 藤原先生
- 新しい教材映画の紹介  
「パルスの世界」その他の試写  
トーカーの8ミリ映写機について

昭和三十七年十二月五日 印刷  
昭和三十七年十二月十日 発行

【非売品】

編集者 室井 綽  
兼 神戸市長田区寺池町一丁目  
県立兵庫高等学校

同 神戸市長田区池田上町二八  
神戸常盤女子中・高等学校  
古川 博 二

会 明石市大蔵谷  
計 立明石高等学校  
澁谷 久雄  
(兵庫県生物学会)  
振替口座神戸一七五〇一番

印刷所 神戸市長田区西尻池町五丁目一三  
高田印刷紙器工廠  
電話神戸⑦代表二二一五番

発行所 兵庫県生物学会